

令和2年5月18日

発言者	発言要旨
森谷委員	山形県産農林水産物消費拡大キャンペーンの実施状況はどうか。
農産物流通販売推進室長	5月2日～13日の12日間、県産さくらんぼや総称山形牛の第1弾のプレゼントキャンペーンを実施した。全国47都道府県全ての住民から計44,918件の応募があり、全国的に注目をいただいた企画だと認識している。
森谷委員	今回のキャンペーンは第1弾の企画だが、次の施策にどう結び付けていく考えなのか。
農産物流通販売推進室長	5月14日から6月16日まで第2弾のキャンペーンを実施している。おいしい山形の通販紹介サイトにおいて、3,500円以上の買い物をしていただいた方の中から抽選で、県産さくらんぼ又は総称山形牛をプレゼントするものである。第1弾の企画に多数の応募があり、この結果を第2弾のキャンペーンにつなげていきたいと考えている。
森谷委員	ギフト向けなど高級品として取り扱われる県産さくらんぼについては、県内で消費されることも重要である。学校給食以外における消費拡大の取組みはどうなっているか。
園芸農業推進課長	さくらんぼについても花きの取組みである「花を飾ろう！花を贈ろう！運動」と同様にキャンペーンを実施していくことを考えている。県職員向けの取組みとなるが、買い支えしていきたい。
森谷委員	農林水産業に係る県予算400億円について、6月補正における予算の組替えなどの考えはどうか。
農政企画課長	例えば、農林大学校の学生をアメリカで研修させる経費などについては、渡航禁止・入国制限されている中、実施が見込まれないものとなる。実施できなければ不用額となるが、個別の事業ごと精査中である。
森谷委員	イベント中止を発表しているなど不用額となることがあらかじめわかっているにもかかわらず、2月補正で対応するなどということはないようにしてほしい。
加賀委員	県産農産物の消費拡大について、消費動向を見極め、新型コロナウイルスの影響もシミュレーションしながら取り組んでいく必要があると考えるがどうか。
6次産業推進課長	3月の全国の百貨店における販売額は前年同月比でマイナスとなっているが、スーパーについては旺盛であり二桁近い伸びとなっている。カップ麺、ドレッシングなどの需要が大きくなっていることを踏まえ、適切に対応していきたい。
加賀委員	マルキン制度（肉用牛肥育経営安定交付金）の9/10補填の残る1割に対する県単補助について、検討状況はどうか。

発 言 者	発 言 要 旨
畜産振興課長	肥育農家の再生産が可能となる施策としてはどのようなものが良いか、関係者の意見を聴きながら、現在、検討を重ねているところである。
加賀委員	残り1割の補助が再生産に結び付くものになると考えるので、6月補正に盛り込んでほしい。 東京五輪が1年延期されたことにより、選手村ダイニングのメニューとして取り扱われる県産農産物への影響はあるのか。
農産物流通販売推進室長	内閣府の東京五輪の事務局からは、延期後の開催時期が当初予定していた時期とほぼ同じであることから、提供メニューは変更がないと聞いている。今後、組織委員会等で協議されることになるが、引き続き県産農産物を使用してもらえよう働きかけていく。
加賀委員	新型コロナウイルスによる農林業専門職大学設置に向けた取組みへの影響はどうか。
農政企画課長(兼) 専門職大学整備推進室長	今年度、新校舎の設計を始める予定である。設計業者をプロポーザル方式で選定するための審査会を開いたところであり、近日中に県内から公募し、8月以降に設計業者を決定したい。設計業については、在宅勤務など柔軟な働き方ができる業種と考えており、できる工夫をしながら遅れることなく進めていきたい。
加賀委員	6月補正においても新たな政策により生産者を支援していくことが考えられるが、国、県の支援策や、同じ県でも各課で様々な支援策が講じられるのであれば、生産者から見ても分かり易い支援策一覧のようなものを県ホームページに載せられないか。
農政企画課長	持続化給付金や融資メニューの問合せ先などを掲載したチラシを作成し、4月下旬に県内農家あて周知した。今後、メニューが増えてくれば全体像がわかるようにホームページの内容を工夫していきたい。
吉村委員	県産農産物の輸出への影響についてはどうか。
農産物流通販売推進室長	米などの貨物船で輸送するものについてはあまり影響ないが、さくらんぼなど航空便で輸送するものについては、航空貨物便が大幅に減便していることから、影響が出るのではないかと危惧しており、今後、航空便等が回復することを見守っているという状況である。
森田委員	県産農産物や水産物について、今後、学校給食での使用はどうなるのか。
6次産業推進課長	今月から県内の学校が順次再開することとなり、学校給食にも動きが出てくる。関係団体、教育庁等と連携し、県産農産物を学校給食で使用してもらえよう準備していく。
森田委員	最上地域のバラが売れていないことから、最上総合支庁の中でバラを販売していると聞いたが、花きの消費拡大のための取組みは怎么样了のか。

発 言 者	発 言 要 旨
園芸農業推進課長	3月12日以降、県、市町村、JAにおいては「花を飾ろう！花を贈ろう！運動」を実施している。また、県内の学校において飾花するための予算を4月補正に盛り込み6月以降に実施するとともに、オープンしたばかりの山形県総合文化芸術館においても県産花きを飾花しPRしていく。
森田委員	国においては、早くも第2次補正予算を編成しようとしており、農家に対する補助、支援も積極的に行っていくこととしている。県においても、このような国の動きに同調して施策を展開していくべきと考えるがどうか。
農政企画課長	まだ報道で知り得る情報しかないが、農業の再生産のために必要な支援は何かという観点で6月補正に向けて検討していきたい。
五十嵐副委員長	小規模経営で高齢化が進む農業の再生産は難しく、離農する農家も増えてこない心配している。再生産などの相談窓口が産直施設に設置されていたりするが、農家に対する精神面での支援はどのような状況か。
農政企画課長	持続化給付金の支給対象となるのか、支給のための必要な申請書の書き方など再生産のための相談対応については、農協・市町村にもお願いをしながら連携して行っている。
五十嵐副委員長	今日食べた山形牛を使った弁当に野菜がほとんど使われていなかった。弁当など業務用にも県産の野菜が使われるような取組みをお願いしたい。
農林水産部次長	家庭向けの商品を扱うスーパーなどでの取扱いについては大分伸びている。反面、大きくダメージを受けている外食産業や業務用でどうケアしていくかが重要である。今後も安全、安心なおいしい県産農産物をお店のテーブルに乗せられるよう、考えていきたい。